

第8回埼玉県競輪事業検討委員会 概要

- 日時 令和5年9月14日（木） 10:00～12:00
- 場所 大宮ソニックシティビル 604号室
- 出席者 岩崎康夫委員（委員長）、小川千恵子委員（副委員長）、岡村春香委員、栗原千亜希委員、小沼航士委員、東角井真臣委員
- 講演 横浜商科大学特任教授 山本将利氏

■ 議事概要

- 1 委員長選出
委員の互選により、岩崎委員を委員長に選出。
委員長の指名により、小川委員を副委員長に選出。
- 2 会議の公開について
非公開とすべき情報は含まれないため、原則どおり公開とする。
- 3 議事
議題（1）埼玉県営競輪事業について
事務局より資料を用いて説明

【議事概要】

○ 東角井委員

二つご質問があります。一つ目は最初のページにある日本トーター株式会社さんへの委託料ですが、全体の売上から県が負担する費用と県収益を引いた金額が、日本トーター株式会社さんの委託料になると思いますが、その金額を答えられる範囲でお聞きしたいのと、主に西武園競輪場の関係になると思いますが、モーニング、ミッドナイト、ナイターは場内で買えるものなのか、もしくは場外やネットのみで買えるものなのかをお聞きしたいです。私の勝手な推測だと、おそらくネットや電話等での投票方式になっているのではないかと予想していますが、実際にその現地に行って車券を買えるものなのかお伺いしたいと思います。

○ 事務局

事業者に支払う令和4年度の委託料については、33億円です。

二つ目のご質問ですが、モーニングは8時半から長ければ13時ぐらいまで、ミッドナイトは20時半から23時半、ナイターは15時半から20時半までの開催でございます。

モーニングにつきましては、開門していれば本場でも買えますが、埼玉県では10時以降の開門としていますので、8時半から10時まで開催するレースについては、インターネットもしくは場外でしか買えないというような状況でございます。

ミッドナイトにつきましては、無観客で開催するというようになっておりますので、本場では買うことはできません。

ナイターについては本場で買うことが可能でございます。

○ 小沼委員

老朽化への対応ところですが、例えば1号スタンド、5号スタンド、6号スタンドが閉鎖しているということであれば、取り壊してしまった方が結果的に費用がかからずに済むというのであればそういうことを検討したほうがよいと考えます。

あと、大宮スーパーボールパーク構想のところですが、最後の方に一場体制も視野に期限を決めて検討とありますが、この検討を我々がどこまですべきか、この所掌事務の中のどこに当たっているのかということについて教えていただければと思います。

○ 事務局

ではまず一つ目でございます。

閉鎖中ですでに使っていない施設があるならば壊してしまったほうがいいというご指摘かと思えます。閉鎖中であることは事実ですが、大宮競輪場で本場開催をやっておりますので、競輪を開催しつつ解体を進めることは難しいのではないかと考えます。また、双輪場の施設の解体等については、大宮双輪場を所有している担当部局と相談をしながら進める必要があります。大宮スーパーボールパーク構想もございますので、その進展も踏まえながら、検討していきたいと考えております。

大宮双輪場の今後のあり方に係る検討として、本委員会では、事務局が示したパターンごとのメリットデメリットや、民間資金ノウハウの活用事例の整理、大宮競輪場の関係者の皆様のヒアリング内容、それぞれのパターンに応じた収支予測等について、委員の皆様からご意見をいただき、それを取りまとめたいたいと考えています。最終的には、その内容を踏まえて県が結論を出すということでご理解いただきたいと思います。

○ 岩崎委員長

本場に来られるお客様の傾向について伺いたいのですが、今インターネットによる売上が非常に多くなっているということですが、実質的にどういう年齢層の方が車券を購入されているのか、その辺りについて何かデータがあるのでしょうか。

例えば私のイメージでは、以前は高齢者の方が多かったような気がしておりますが、インターネットが増えるということは、若い人が増えてきているのかなと感じておまして、何か年齢層のデータというのがあれば、その推移が分かればありがたいと思ったのですがいかがでしょうか。

○ 事務局

具体的な年齢層のデータはこちらでは把握をしておりません。しかし、インターネットなどで車券を販売している会社に聞き取りをさせていただきますと、会社によっては20代が5割程度いるとのこと。30代や40代等は会社によって傾向が違いますけれども、やはり20代から40代の方のインターネットでの車券購入が増えているということは聞いております。

ただ、本場に来ていただく方を見ますと、やはり60代や70代の方が多いという状況でございます。

○ 岩崎委員長

今の年齢層それから入場者数などのデータを分析していくと、大宮スーパーボールパーク構想に繋がると思えます。例えば、競輪場が必要になった場合にはどれぐらいの規模でいいのか、今の大宮競輪場を見ますと、三棟が閉鎖されているという状況ですので、今の入場者を収容するのにどれぐらいのスタンドがあればいいのかということに繋げることができると思えます。

本場で見たいという方ももちろんいらっしゃると思うのですが、インターネット利用者層とのバランスというのをどのように考えていくのかということもありますので、なるべくその辺りはデータを見ながら推測をして、議論をしていけたらいいなと思っております。

○ 栗原委員

資料拝見しておりますと入場者数を増加させるという課題と、売상을向上させるという課題があるかと思うのですが、入場者は減少傾向にある一方、売上が向上しているというような状況があるかと思えます。最終的にはもちろん県としての収益を確保していくということが目的になると思うのですが、まずは売上の方を優先していくのか、入場者数の増加を

優先していくのか、どちらを主目的にしてやっていきたいと考えているのかお聞きしたいです。もちろん、両方ということもあるのかもしれませんが、老朽化の問題とかも考えると、どちらに力を入れていくお考えなのかお聞きしたいと思います。

○ 事務局

公営競技につきましては基本的に地方財政の貢献という目的が大きいところでございますので、まず売上が一番大きいと思います。

ただ今後、競輪事業を進めていく上では、やはり新規の購入者を開拓していくことは必要だと思います。それにあたっては、実際見ていただくことによって魅力を発信できるということでございますので、そういった方々に、入場していただいて、見ていただいて、興味を持ってもらうことで入場者の増加に繋がると考えておりますので、我々としては入場者数の増加も目標に掲げているところでございます。

○ 栗原委員

そうしますと、購入層の拡大ということが将来的に売上向上にも繋がっていくことになると思うのですが、先日、オールスター競輪に家族で行かせていただきました。実は車券自体を購入するのも初めてだったのですが、家族誰もやったことなく、初心者としてやらせていただいたのですが、正直な感想として、車券とかの購入方法を知っている人や競輪を知っている人が楽しめるという感じをすごく受けました。

初心者が車券を購入する方法がよくわからないですし、そういった案内もなかったのので、四苦八苦しながら車券を購入したというところがありますので、もし新規の方の購入数を増やしたいと考えるのであれば、そういったことを意識した運営がまず必要なのかなというふうに感じました。

○ 事務局

おっしゃる通り初心者の方には少しハードルが高いというのはよく話を聞くところでございまして、オールスター競輪開催時には初心者の方々のための講習などをしておりますが、まだまだ一般の方がいらっしゃったときに、すぐにそこに馴染めるというわけではないので、PRも含めて積極的に皆様に周知できる方策を検討して実施してまいりたいと思います。

○ 岩崎委員長

今の課題に関連してなんですけれども、前の任期で県営競輪事業の活性化という中で色々な方策を皆さんからご提案いただきました。課題に対する取り組みという中の競輪事業の活性化というところで、先ほど入場料の無料化についてご説明をいただいたのですが、この表の真ん中の内容についてどのような進捗が図られているのか、できましたら内容につきまして教えていただきたいと思います。

○ 事務局

入場料の無料化については、既に実現をさせていただいております。イベントについては、様々な企画をして随時進めさせていただいております。

競輪場内の人気飲食店やカフェの誘致ということで、なかなかそのまま店舗を持ってくるとするのは現実的ではございませんので、色々なキッチンカーにまずは来ていただいて、来場者に様々なグルメを提供できるようにしています。

競輪を楽しめる演出というところについては、競技実施法人のJKAとも意見交換しつつ、検討をしているところでございます。

団体客誘致のためのボックス席の整備については、すでに始めておりましてホームページの方でも案内を始めているところでございます。

そして地元を拠点としたエンターテインメント企業との連携については、大宮に劇場のある吉本興業様とコラボさせていただいて、大宮開催の際にいろいろな芸人さんに出演いただき、他にも競輪の魅力を伝えるテレビ番組も作らせていただいております。

スポーツバーと連携したネット車券の発売の展開については、G I 開催時などにスポーツバーにお声がけをさせていただいております。しかし、放送内容がかなり前から決まっているといった状況もございまして、まだ実現できておりません。ここは継続して交渉をさせていただいているところでございます。

学校との連携ということで、こちらも小中学生に参加していただけるイベントを小中学校と連携して進めているところでございます。競輪選手の意見を反映した取組みというものも随時やらせていただいております。オールスター競輪でも選手発案のイベントをさせていただいたところでございます。

大宮双輪場の大宮公園との一体化につきましては、賛成反対も含めて、皆様いろいろな意見があると聞いておりますので、こちらはしっかりと議論を深めていくということになるかと思っております。

○ 岩崎委員長

競輪事業の活性化に係るたくさんの項目がありますけれども、いろいろと進めていただいておりますありがとうございます。これは各委員から出た意見ということでございますので引き続きよろしく申し上げます。

○ 岡村委員

2点質問がありまして、開門が10時で閉門が20時半と書かれていますが、それより以前にモーニングが始まって、ミッドナイトは20時半から始まっているかと思っております。レースの時間に合わせて開門していないのはなぜかお聞きしたいと思います。

また、スーパーボールパーク構想で、全ての完成まで10年単位の想定とあるのですが、基本計画で10年なのか、工事まで全て含めて10年ということなのでしょうか。

○ 事務局

まず、モーニングの開催が8時半からなのに開門10時なのはなぜかというところは、地元との調整の結果でございます。大宮双輪場は目の前に中学校がありますので、8時半から開門にすると登校時間と重なってしまうということがあります。地元自治会との調整で10時としております。また、西武園も地元の自治会との調整の中で8時半ではなく10時からしてほしいとのご要望をいただいておりますので、10時開門にさせていただいているところでございます。

スーパーボールパーク構想のスケジュールの点ですが、10年単位というのは工事まで全て含めて構想が完成するまでには10年単位の年数が想定されるというところでございます。

○ 東角井委員

たびたび課題に対する取り組みのところで、競輪事業を活性化するには学校と連携した方がいいとありますが、私は大宮双輪場の目の前の中学校に通っていたのですが、学校と連携はしない方がいいと思っております。教育上よくないというか、あくまでも競輪というのは大人の遊び場というか、20歳以上でないと車券が買えないのに、その法律で禁止をされているギャンブルを楽しくやろうよって小中学生に教えるのはちょっとどうかと思っております。地元代表として、教育上よくないなと思っております。子供達を呼ぶとか、ついてきたお父さんやお母さんがやるというのはあまり想定をしない方がいいのかなと思っております。少し厳しい意見ですが、よろしく願いいたします。

○ 小沼委員

私もこれは結構根幹な話かなと思っていて、競輪はスポーツなのかみたいところがあると思います。

一方ではJリーグではトトがあつて、賭けの対象になっているというところがありますが、スポーツベッティングとしてもっと開放すべきじゃないかということも議論されています。そうした時に、前にもお話したと思うのですが、選手はどう思っているのかなというところがあると思っています。

先ほど栗原委員からもありましたが、本場開催なのか、インターネットなのかというところで、やはりスポーツに携わっている者としては、現場で汗を流してスポーツをして頑張っている姿を見てほしいというところがあります。選手たちも見てもらいたい、応援してもらいたいのではないかなと思います。そういった面からも選手の声聞くべきかと思いません。

入場料無料化をしているので、県営競技事務所も本場の来場者数を伸ばしたいというところはあるかと思っています。ただ、インターネットの売上がどんどん増えている中で、経営の視点で見るとインターネットを伸ばせばいいんじゃないかという発想になっていくと思います。しかし、そうでない部分、スポーツとして頑張っている選手たちを見る、応援する、だから、やはり現地に来てほしいという視点もあると思います。あと、すぐくイメージ良くないと思うのは、場内を見ているとマナーが悪い場面を見かけることもあり、それは教育上よくないと思うので、そういった部分をどうしていくのかということと向き合うべきなのかなと思いつながり聞いておりました。

○ 岩崎委員長

学校との連携は、自転車競技の関係で出てきた話でしたっけ。

○ 事務局

はい。例えば選手体験や、選手から実際に自転車の乗り方を教わる教室や自転車の乗り方のマナー等を教える教室などを学校と連携して行い、自転車競技を身近に感じてもらうということでやらせていただいております。

○ 岩崎委員長

競輪事業の活性化という枠にストレートに合っていないような感じがします。その文言変えたらどうですか。学校との連携というよりも、今の選手としての体験等とか、そういうような項目で入れればいいのかという気がしますけど、学校とちょっと別に微妙な言い回しがあるのかなと思いますので、いかがでしょうか。委員さん、今の文言整理をちょっとしていただくということはいかがでしょうか。

(異議なし)

○ 岩崎委員長

それでは9番の学校との連携につきましては、事務局にお任せしますので先ほどその体験云々とかですね、そういうものに入れ替えていただきたいと思います。

○ 岩崎委員長

それでは次に、(2)今後の検討事項についてということで事務局から説明をお願いいたします。

(議題(2)今後の検討事項について 事務局より資料を用いて説明)

○ 岩崎委員長

ありがとうございました。今後の検討事項ということで事務局からご説明をいただきました。こういう形で進めていきたいということで、事例を挙げて説明をしていただいたところでございます。

これにつきましてご質問、ご意見ございましたらお願いをいたします。

○ 小沼委員

まず基本的なところから、この委員会では次のタイミングも含めて、いつまでに何を決めなければいけないかといったスケジュール感を伺いたいです。

○ 事務局

我々として、積極的に大宮競輪場に関係する方々にお話を聞いて、様々な意見を集めながら、併せてライフサイクルコストを分析していこうということを考えています。

それを踏まえて、具体的にどのぐらいのタイミングで皆様にご提示できるか、またそれを踏まえてどういった方向性が出ていくかということ、今後正式にスケジュールを組んでいきたいと思えます。

また、改めて皆様にお知らせをさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

○ 小沼委員

そうすると、先ほどの大宮スーパーボールパーク構想の10年単位というところのスケジュールだったのですが、これは結論が出ないとスーパーボールパーク構想も動けないみたいな形になってしまうのではないかと思ったのですがいかがでしょうか。

○ 事務局

今ご指摘ありましたとおり、大宮双輪場のあり方検討は大宮スーパーボール構想の一部になりますので、同構想を進める上で重要な位置づけになると思えます。こちらにつきましては、大宮スーパーボールパーク構想を担当しております部局とも綿密に連携をとりまして、スケジュールもあわせて調整の上、皆様にお示ししたいと考えております。

○ 岩崎委員長

スーパーボールパーク構想のスケジュールというのもまだ粗々でございますので、県の内部で調整を図って進めていくということでよろしいですか。

○ 栗原委員

今回の検討の中で、建て替えのパターンも検討されているということですが、この建て替えの場合ですが、その競輪場に単純に競輪場だけの機能を持たせるのか、それとも陸上競技場としての機能も持たせるのか、これについて方向性は出ているのでしょうか。

○ 事務局

現時点で新たな運動施設について、はっきりとした方向性は決まっておりません。

ただ、今の段階では陸上競技場というものは例示に入っておりませんので、新たな運動施設として自転車競技施設だけの機能を持たせるものとして、検討してまいりたいと考えています。

○ 小川副委員長

民間活用手法の例としてPFI方式とか挙げられていましたが、自治体さん結構PFI方式を活用している事例が多いかと思うのですが、競輪場の数がそんなに多くなく、実際に建て替えている例がそんなに多くないので実績ないということになるのだと思えますが、今

後他の競輪場とかで建て替え等を検討されているところは情報としてあるのでしょうか。

○ 事務局

現時点で建て替えをしているのは広島市です。これから建て替えを検討していると聞いているのは京都府向日町競輪場です。こちらにつきましては、今ある施設を取り壊して新しい施設を作る計画があると聞いております。

○ 小川副委員長

そこはPFI方式ですか。

○ 事務局

広島は、土地貸借と包括連携委託を合わせたパターンです。京都府についてはこれから具体的なものを決めていくということ聞いております。実際にどういう形のもの、例えば自治体で建てるのか、もしくは民間活用するかというところまでは正式には決まっていなくて聞いています。

○ 小川副委員長

分かれば、他の事例の情報収集もお願いします。

○ 岩崎委員長

この後、横浜商科大学の山本先生からご講演をいただくことになっておりまして、最近の競輪場の再整備事例ということでご講演をいただくことになっておりますので、そちらの方にまた移っていきたいというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

○ 小沼委員

建設的な意見として言いたいのですが、このメリットデメリットを見る限り、⑤の選択肢もあると思います。売上の大幅な減少がデメリットとありますが、インターネットの売上が伸びていることを踏まえると、西武園で収益の最大化を図るといった選択肢もあるのではないかと思います。

そのため、ここから先の今後の競輪場のあり方をしっかりと考えていかないと、⑤の廃止方向に向かうことも考えられますし、ここで建て替える場合、近隣住民への説明がなかなか厳しい面もあるのではないかと想像します。そうした時にポイントになるのは、例えば、売上の中から社会貢献に充てていく費用があって、大宮から競輪場がなくなってしまうともったいないというような、何かそういった建設的な提案がないとなかなか難しいと思います。この後、山本教授のお話もあるので、何かそういった方策があるのか皆さんで考えていけたらなと思っております。

○ 岩崎委員長

この表については、この下に書いてありますけれども「大宮競輪関係者や競輪事業、PPP/PFIの専門家等からヒアリングした内容を参考に検討を進める」ということになっておりますので、この上のパターン案というのはあくまでも今の段階で例示をしたということでご了解をいただきたいというふうに思います。

このパターンの他にも、小沼委員からもありましたように違う部分もあるかもしれませんが、あくまでもこれは一事例ということで、参考にさせていただければというふうに思います。

○ 岩崎委員長

大変お待たせいたしました。山本先生から、最近の競輪場再整備事例についてというこ

とでご講演をいただきたいと思います。事務局から説明お願いいたします。

○ 事務局

それでは山本先生の経歴をご紹介させていただきます。

山本先生はコンサルティング会社の主任研究員といたしまして、多くの競輪場の再整備に関わった経験をお持ちでございます。また、経済産業省産業構造審議会車両競技小委員会や、京都府の向日町競輪事業外部有識者会議など、競輪に関係する各種委員会の委員も多数務めていらっしゃいます。それでは、山本先生よろしく申し上げます。

(山本教授によるご講演)

○ 岩崎委員長

どうもありがとうございました。

貴重なご講演をいただきましたけれども、せっかくの機会ですので質問がある方はお願いしたいと思います。

○ 岩崎委員長

私から一つ質問があります。大宮は500mバンクなのですが、千葉はバンクを小さくしたという話を聞きます。その他に走路を縮めた事例はありますでしょうか。

○ 山本教授

先ほど挙げたもので言うと、前橋競輪場は元々400mのバンクでしたが、ドームへ建替え後は、335mに縮めました。あと、松山競輪場は500mでしたが移転整備時に400mになりました。

事例はありますので、縮めることは十分に選択肢に入れていただいていた方がいいと思います。短くするとスピードが上がりますので、よりスピーディーな迫力のあるレースになると個人的には思います。

○ 小沼委員

ありがとうございます。非常に勉強になりました。

質問なのですが、近隣との関係で、大宮競輪場は近くに中学校があります。加えて、大宮公園自体もすぐく由緒ある公園で、しかも氷川神社さんもあるという中で、その中で我々もサッカー興行をさせてもらっているのですが、そういった周辺環境に対して、他の競輪場さんはどういうふうに対応されているのかなという事例を教えていただけたらと思います。

○ 山本教授

競輪場は町中にある事例がかなり多く、例えば今日ご紹介した大垣競輪場は隣に小学校があり向かいに中学校があるといった環境でミッドナイト競輪もやっていますけれども、近隣との関係が非常に良いです。大垣競輪場は再整備を進めていますが、周りの植え込みや植物をきちんと整備し、庭園のようにし、誰もが自由に通れるようにするという構想で整備を行っています。

地元との関係では学校近くというところが多く、それぞれの学校や地域団体と定期的に協議する機会を持って、地元の要望を聞いています。他にも競輪場の中を町内会の盆踊りの会場にしたり、または、西武園でもやっておりますがフリーマーケットの会場として使ったり、周辺地域の人に貢献することをほとんどの競輪場で実行している状況です。

また、お金の面では、法律上社会貢献として、売上の約1.9%を公益財団法人JKAに納めることになっています。よくコマーシャルをやっていると思いますが、そのお金が社会貢献に使われています。また、それとは別に県の収益は例えば県のインフラ整備等様々な県

の事業に使われて社会貢献になっていますし、地域によっては、地元でイベントをやった時に、一部協賛金みたいな形で金銭としてお支払いしているという例もお聞きしております。また、町内会の方々にボランティアとかお掃除とかいろいろ手伝ってもらった対価としてお支払いしているなど事例は各競輪場によってまちまちです。

社会貢献、地域貢献については、地方公共団体が真摯に取り組んでいると聞いています。

○ 小沼委員

そうすると、やはり気になるのは、賭け事っていう事について、資料にギャンブル依存症という言葉もありましたけど、そういったイメージや、ネガティブイメージとしての賭け事というところに関してどういうふうに向き合っている、どういうふうな発信とかコミュニケーションの取り方をとっているのかというのを聞かせていただければと思います。

○ 山本教授

ギャンブル依存症は公営競技全体として取り組まなければならない課題だと思います。ギャンブル依存症の方、またはご家族等からの申告がある方には立ち入りをさせないというような措置を全国統一で取っています。これをきちんと全国の公営競技全体で統一して取り組んでいるというのが一番大きなところですよ。

また、各競輪場では未成年者が車券を購入できないように、相当数のガードマン等を立たせています。

それから、先ほどお話に出たマナーが良くない方というのも、昔に比べると全体の来場者数が減っているというのがありますし、警備巡回も非常に綿密にやっていますので、トラブルは減っていると思います。

○ 岩崎委員長

貴重なご講演本当にありがとうございました。

本日の議事につきましてはこれで終了させていただきたいと思っております。その他について事務局で何かありますでしょうか。

○ 事務局

次回の検討委員会の日程につきましては、改めて日程調整をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

○ 岩崎委員長

本日予定されておりました議事は以上となります。ご協力ありがとうございました。この進行は事務局にお返しをいたします。

○ 事務局

では岩崎委員長ありがとうございました。また委員の皆様におかれましても、長時間にわたり大変お疲れ様でした。

以上をもちまして、第8回埼玉県競輪事業検討委員会を終了いたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

以上